

2019年 後期 千葉県大問5(2)

次を読んで、問い合わせよ。

Let's play an English word game. You change the order of the letters in a word or phrase and make a (A) word or phrase. For example, the word "silent" can become "listen." Like this, you can make new words related to the original words. Here is another good example: "canoe." You know a canoe can take us to the "ocean." Now let's try with two words: "they see." "Do you have an answer? One answer is "the eyes." How about this? "One plus twelve." Well, this phrase becomes "(B) plus eleven." Also, how many letters are in these phrases?

(注) order: 順序 letter: 文字 phrase: 句 silent: 静かな

(注) related to: ~と関係がある canoe: カヌー plus: ~を加えて

本文中の(A)(B)に入る最も適当な語を、それぞれ次のア~エのうちから一つずつ選び、その符号を書け。

(A)ア different イ kind ウ long エ useful

(B)ア one イ two ウ six エ ten

豆知識コーナー：本文から1つテーマを見つけ、その説明をするコーナーです。

1行目

You **change** the order of the letters in a **word** **or** **phrase** **and**
you **make** a (A) **word** **or** **phrase**.

phrase は単数名詞なので、左から単数名詞を探します。よって、aを受けて word とペアです。

and の右が動詞(make)なので、左の動詞とつながっていると分かる。よって、上記のような構造になる。

日本語にすると、以下のようになります。

あなたは、単語や句の文字の順序を入れ替えます。そして、
あなたは、異なる単語や句を作ります。

このように、等位接続詞(and, but, or...)が出てきた場合、すぐ右の語句をよく見ましょう。それから、同じ働きの語句を左から探し、関係を把握しましょう。慣れてくると、自然とできるようになります。、アルファベットの数です。

2019年 後期 千葉県大問5(2) 答え

- (A) ア **different** イ kind ウ long エ useful
(B) ア one イ two ウ six エ ten

心の中で、被せる（かぶせる）ように訳す。
(例) 鈴木さんはいつも学んでいます。何を？新しい事を（学んでいます）。※青色の語句が被せられた語句です。

解説&読み解きポイント

Let's play an English word game. 場面を限定してくれている。
イメージを作り出そう！

何を？ 何の？ You change the order of the letters in a word or phrase and make a (A) word or phrase.

あなた 変える 順番 文字の 語句内の or フレーズ内の

For example, the word “silent” can become “listen.”

Like this, you can make new words related to the original words.

related のように、なんの脈略もなく登場した ed は、分詞かな？と疑うこと。これ大切な発想です。

あります Here is another good example: “canoe.” You know a canoe can take us to the “ocean.”

使って 語句 Now let's try with two words: “they see.”

このように、強制的に、問題を投げかけてくることもあります。参考型長文読解です。

Do you have an answer ?

One answer is “the eyes.”

make と related : 一見、動詞が2つあるが…

related が ed なので、見た目では、過去形か過去分詞か判断できない。しかし make は、接続詞の that を取らないので、この文はすでに you can make... と「主語 + 動詞」がある。だから何？と思いますよね。英文は、一つの文で、動詞は一つだけである。よって、related は動詞になれないで過去分詞だと分かる。

最後の 1 文は、疑問詞が主語の文です。

how many letters (どれだけ文字が) are (ありますか？)

in these phrases ? (この言い回しに)

1 + 12 は 13 ですね。

B + 11 は…ですので、2 が正解です。

また、letter (アルファベット) も、t, w, o, p, l, u, s, e, l, e, v, e, n で、13 です。

How about this ? “One plus twelve.”

これはどうですか？

Well, this phrase becomes “(B) plus eleven.”

これ まとめて 主語 (が) Also, how many letters are in these phrases ?

letter (文字) とは、アルファベットのことです。

英文は、前の語句に色付けをしながら読み進めます。

(例) The book on the desk is mine.

その本は、机の上にある、私のものです。



on the desk

最初は、こう。

色付けされます。

英文は、疑問に答える順番で語句が並んでいる。だから「ツッコミ」を入れ、答えを探すように後ろを読むのが基本スタイルです。

(例) I ate cakes. ぼくは食べた。ケーキを(食べた)。

the book は「本」。まだ、「どんな本なのか」、分かりませんよね。そこに on the desk が、色付けをしてくれます。

英文は、語句を読むごとに、想像を重ねていくイメージを持って読み進めていくと、内容が頭にスッと入ってきます。

文末は、「場所」「with 人」「時」の順番になります。ただし、いざかが欠けている場合は、強調したい語句が前に来ます。また、on the street near my house のように、「狭い→広い」順番になります。

一般動詞の次、名詞の次、be 動詞の次の語句の次で切り、前から順番に訳していきます。

黄色…名詞です。桃色…前置詞+名詞です。

緑色…等位接続詞 or 接続詞の that です。